

## 九年庵 春の一般公開

5月1日から5日まで、国の名勝九年庵が一般に公開され、期間中約1万2500人が訪れ、春の新緑を堪能しました。

九年庵とは、佐賀の実業家・伊丹弥太郎が築いた邸宅と庭園で、新緑の時期に公開されるのは今年で3回目です。

雨上がりの公開初日、雲の切れ間から朝日が差し込み、約130本のもみじと40種の苔をまぶしく照らしました。

北九州市から来た男性は、「緑が美しい。紅葉の時期よりもゆっくりと楽しめた。」と話していました。



▲大圓寺のなんじゃもんじゃの木



▲浄徳寺のシャクナゲ

## 季節を彩る花の便り

シャクナゲ寺として有名な脊振町の浄徳寺で、今年も4月25日から5月13日までシャクナゲ祭りが開かれました。樹齢400年と言われ、佐賀名木100選にも選ばれた弁財天のシャクナゲをはじめ、さまざまな色や形のシャクナゲ約1万本が訪れた人を出迎えました。園内では苗木の販売も行われ、購入した男性は「シャクナゲは難しいと聞くが、ぜひ自宅に植えたい」と育て方を熱心に聞き入っていました。

一方、神埼町四丁目の大圓寺では、今年も「なんじゃもんじゃ」の白い花が咲き、青空と美しいコントラストを見せていました。なんじゃもんじゃはヒトツバタゴの別名で、長崎県対馬市の自生地では天然記念物にも指定されています。

## 福祉の充実に役立ってます

4月18日、神崎市社会福祉協議会に、西日本新聞エリアグループ佐賀から車いす送迎車が贈られました。

これは、西日本新聞社が今年創刊135周年を迎える記念事業として贈っているもので、県内では6台目です。

送迎車は軽自動車で、トランク部分を開けてスロープを出し、後部座席に車いす1台が乗せられます。

職員は、「デイサービス利用者の送迎時に、狭い路地を通るので大変助かる」と話していました。



熱心にメモをとる受講生

## いきいき大学が開校しました

5月17日、第1回いきいき大学が市長講演で始まりました。豊富な統計資料や写真を示しながら、神崎市が抱える人口問題や、全国で関心のある東日本大震災の瓦礫の処理の問題について、市長としての考えを率直に語りました。また、地域の活性化にむけて菱の水田作付けを試みていることや、王仁天満宮にまつわるロマンあふれる話などがあり、受講生も向学心が刺激されたようです。

今年度のいきいき大学は372人でスタート。毎回、お話を聞いたあとは元気がでます。学ぶ事は生きる事、生きる事は学び続けることでもあります。まだまだ座席には余裕がありますので、60歳になったらいきいき大学に入学しましょう。



## 経験を活かし、夢の実現を目指します

青年海外協力隊としてエチオピアで2年間活動された久富和範さん（神埼町志波屋）が、市役所を訪問し、市長へ活動を報告しました。

久富さんは、平成22年3月から平成24年3月までエチオピアのメキ・バツ農協に派遣され、村落開発普及員として指導を行いながら、農作物の市場開拓や付加価値を付けたブランド開発に携わりました。

「意見がぶつかることもあるが、その時にどう歩み寄り目標達成に近づけるかが大切」と話す久富さん。教師になるのが目標とのことで、「これまでの経験を子どもたちに伝えたい。夢を叶えるためがんばります」と話しました。



## カヌー世界大会に出場！

5月1日、スロバキアで開催される2012ピースタニー国際カヌーレガッタに日本代表として出場される神埼高校の野口夏子さん（神埼町永歌）が、日本代表チームのコーチを務める園田里志さん（神埼町八子）と共に、市役所を表敬訪問しました。

野口さんは神崎市B&G海洋センターで中学1年生からカヌー競技を始め、中学3年生の時には、濱田真子さん（神埼町一丁目）とカヤックペアーで全国2位の成績を残されています。高校ではインターハイや国体などにも佐賀県を代表して出場し、昨年はカヤックシングルで国体3位の成績をおさめ、今回、念願の世界大会への出場となりました。

## ベテランの技術でミツバチ飼育のお手伝い

神埼町一丁目の出身で札幌市在住の城島常雄さんが、「サッポロ・ミツバチ・プロジェクト」（さっばち）で活躍されています。

さっばちとは、サッポロの街中でミツバチを飼い、緑化や蜂蜜を使った地域ブランドづくりを進める市民参加型のプロジェクト。平成22年に発足した実行委員会で養蜂や採蜜の指導にあたったのが城島さんです。

城島さんは佐賀での65年間の養蜂経験を活かし、参加者に一から指導を行いました。活動が始まった3年前は3万匹だった飼育数も現在では約12万匹に増え、観光資源開発や緑化推進など様々な効果が期待されています。そのプロジェクトで師匠として活動を支えている城島さんは今年88歳を迎え、後継者の育成にも力を入れるなど、ますます精力的に活動されています。



## そうめん流し 大盛況

5月3日から5日までの3日間、吉野ヶ里歴史公園の市の広場で、神埼そうめん祭りが開催されました。

これは神埼そうめん協同組合が日頃の感謝と神埼そうめんのPRのため毎年行っているイベントで、30メートル1本と10メートル2本の割り竹でそうめん流しが行われました。

期間中は好天に恵まれ、昼前には長蛇の列となり、そうめん流しの両脇を埋め尽くした参加者は「初めてで楽しい」「下の方はなかなか流れて来ないから、もっと上の方に行こう」と話しながらそうめん流しを楽しみました。